令和７年度入学試験合格者各位

**入学前ガイダンス**

令和６年１１月１日

筑波大学人文社会ビジネス科学学術院

法曹専攻（法科大学院）

**１．入学前ガイダンスのお知らせ**

当法科大学院では、皆様のご入学に先立ち、以下とおり入学前ガイダンスを実施いたします。

なお、本ガイダンスの全プログラムは、ビデオ録画の上、本ガイダンス席上配布するID及びPWにより（欠席者の方は別途送付します。）、視聴することができます。

【日 程】

１日目：令和６年１２月７日（土）１３：００～１６：００

１．専攻長挨拶（１３：００～１３：１０）

２．教員紹介（１３：１０～１３：３０）

３．講演　山口卓男「社会人のみなさんが法曹を目指すということ」（１３：３０～１４：２０）

（弁護士，筑波アカデミア法律事務所代表，元司法研修所民事弁護教官）

　　　　４．施設案内・自己紹介（１４：３０～１６：００）

　　　２日目：令和６年１２月８日（日）１３：００～１６：００

1. カリキュラムの説明と質疑応答（１３：００～１４：００）
2. チューターゼミの説明（１４：００～１４：３０）

　　　　３．司法試験に合格した修了生による体験談・質疑応答（１４：４０～１６：００）

　【場所】　筑波大学東京キャンパス文京校舎　５０２室

　　※オンライン参加も可能ですので（但し，１日目№３は録画はしません。），ご連絡ください。

　【録画視聴】

１．修了までのカリキュラム全体説明（教務委員長）

２．法学入門，３年間の学習計画について（直井義典）

３．チューターゼミについて（吉田大輔）

　　　　４．TKC社ロー・ライブラリー利用法説明

５．憲法の勉強について（大石和彦）

６．民法の勉強について（村山淳子）

７．刑法の勉強について（渡邊卓也）

８．商法の勉強について（萬澤陽子）

９．行政法の勉強について（日野辰哉）

10．民事訴訟法の勉強について（田村陽子）

11．刑事訴訟法の勉強について（尾崎愛美）

12．実務系科目（民事）について（姫野博昭）

13．実務系科目（刑事・法曹倫理）について（森田憲右）

**２．各科目推薦書のご案内**

法科大学院の授業では、入学直後の１年次科目から、分厚い、いわゆる「基本書」（下表右）を使用しますが、本学法科大学院では、「純粋未修者」が少なくないことに鑑み、開講前に読んで役に立つと思われる入門書（下表左）を推奨しております。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 開講前に読んで欲しい入門書 | 授業で使用する基本書など |
| 法学入門 | 各人の必要・関心に応じて適宜選択してください。ロースクールの基礎科目（＝司法試験科目）を一通り概観するタイプの入門書として、松井茂記ほか『はじめての法律学　第6版』（有斐閣アルマ 2020）、私法に特化しているものではあるが、池田真朗ほか『法の世界へ　第9版』（有斐閣アルマ 2023）。法律の条文の読み方を説明するものとして、道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に　第2版』（弘文堂 2017）、白石忠志『法律文章読本』（弘文堂2024）。 |  |
| 憲法 | 初学者でもより理解しやすい表現の、携帯容易なサイズの独習用サブ・テキストとして渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１（人権）（第８版）』（有斐閣アルマ2022）（お金と時間があれば『憲法２（統治）（第８版）』（有斐閣アルマ2022）も。ここで人権を優先したのは、現行司法試験論文式公法系第１問の出題傾向による。）。上掲２巻本は、「入門」というよりは、司法試験本番まで使用に耐えうる内容も盛り込まれています。 | 授業中使用テキストとしては長谷部恭男他編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』（有斐閣 別冊ジュリスト245号・246号 2019）を指定してきましたが、2025年8月下旬に同書第8版の刊行が予定されているため、現時点での7版の購入は薦めません（2025年度の授業では履修者が上記テキストを持たないことを前提に教員が提供する判例教材に沿って授業進行します。）。なお授業必携テキストではなく独習用参考書の例として渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅰ基本権（第２版）』（日本評論社 2023）。同一執筆陣による姉妹編として『憲法Ⅱ総論・統治』（日本評論社 2020）もありますが、こちらも間もなく第2版が出る可能性が高いため、現時点でのⅡ巻（初版）の購入は薦めません。  |
| 民法 | 道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門（第５版）』（日本経済新聞出版社　202４）、潮見佳男『民法（全）（第3版）』（有斐閣　2022）★購入する場合には、その時点での最新版であることをご確認ください。 | 民法は複数の教員が担当しているため，教科書・参考書等の取り扱いは担当教員によって異なります。そのため、下記を除き、各科目の担当教員からの後日の指示にしたがってください。　　　　　　　記民法Ⅰは、佐久間毅『民法の基礎１　総則　第5版』（有斐閣　2020）、佐久間毅『民法の基礎２　物権　第3版』（有斐閣　2023）を、民法Ⅱは、石田剛ほか『民法Ⅱ　物権　第4版』（有斐閣リーガルクエスト　2022）を使用する予定です。民法Ⅳ－１は、佐久間毅『民法の基礎１　総則　第5版』（有斐閣　2020）を参考文献の１つにする予定です。★購入する場合には、その時点での最新版であることをご確認ください。 |
| 刑法 | 井田良『入門刑法学・総論 第２版』（有斐閣 2018）、井田良『入門刑法学・各論 第２版』（有斐閣 2018）その他、松原芳博『刑法概説［第３版］』（成文堂 2024）、内田幸隆＝杉本一敏『刑法総論』（有斐閣 2019） | 松原芳博『刑法総論［第３版］』（日本評論社、2022）、松原芳博『刑法各論［第３版］』（日本評論社、2024）その他、高橋則夫『刑法総論 第５版』（成文堂 2022）、高橋則夫『刑法各論 第４版』（成文堂 2022） |
| 民事訴訟法 | 1. 山本弘＝長谷部由起子＝松下　淳一

『民事訴訟法【第４版】』（有斐閣アルマ、2023）（入門書としても良いが司法試験まで対応可。）②松宮孝明＝川嶋四郎編著『レクチャー日本の司法』（法律文化社　2014）（刑事訴訟法との比較も含まれるので、純粋未修の方向けです）。 | 民事訴訟法Ⅰの授業では、和田吉宏『基礎からわかる民事訴訟法【第2版】』（商事法務 2022）、長谷部由起子ほか『基礎演習民事訴訟法【第3版】』（弘文堂、2018）を基本書として使います。できればこの2冊を早めに所有して眺めておいてください。三木浩一ほか『LegalQuest民事訴訟法【第４版】』は、参考書としてお勧めです。各科目基本書は３冊くらいはどのみち必要にはなろうかと思います。そのうち好みの１冊に情報収れんさせることが重要です。 |
| 刑事訴訟法 | 純粋未修者の方は、緑大輔著『刑事訴訟法入門第2版』（日本評論社、2017年）を入手して、読み進めておくことをおすすめします。理解しにくい箇所については、授業開始後に質問するようにしてみてください。 | 授業では、配布教材を中心に使用するほか、亀井源太郎・岩下雅充・堀田周吾・中島宏 ・安井哲章著『プロセス講義刑事訴訟法』（信山社、2016年）を基本書とします。また、川出敏裕『判例講座刑事訴訟法〔捜査・証拠篇〔第2版〕』（立花書房、2021年）、川出敏裕『判例講座刑事訴訟法〔公訴提起・公判・裁判・上訴篇〕〔第2版〕』（立花書房、2023年）を参考書として使用します。 |
| 行政法 | 石川敏行ほか『はじめての行政法 第5版』（有斐閣 2022） | 稲葉馨ほか『Legal Quest 行政法 第５版』（有斐閣 2023）＊より詳しくは「行政法Ⅰ」及び「行政法Ⅱ」のシラバスをご参照ください。 |
| 商法 | 神田秀樹『会社法入門　第三版』（岩波新書　2023年） | 田中亘『会社法［第４版］』（東大出版会 2023年）。また、髙橋美加ほか『会社法［第3版］』（弘文堂 2020年）も参考になる。 |